

ソーシャルメディアの実践的活用を目指した 情報リテラシー教育の運用と評価

An Operation and Evaluation of Information Literacy Education That Aimed to Practical use of Social Media

河野 義広^{*1}

Yoshihiro KAWANO^{*1}

^{*1} 東京情報大学

^{*1} Tokyo University of Information Sciences

Email: ykawano@rsch.tuis.ac.jp

あらまし：近年，スマートフォンやタブレット PC などのモバイル端末の普及に伴い，クラウドサービスやソーシャルメディアの利用が一般的になった．ソーシャルメディアは他者との交流や人脈作りなどに活用されつつある一方で，情報の取捨選択や真偽の見極め，社会生活とのバランスなどの課題も生じている．ソーシャルメディアを賢く活用するためのソーシャルメディアリテラシーは，企業研修や学校教育において注目されつつある．東京情報大学では，2013 年度よりソーシャルメディアやクラウドサービスの活用を通じて，情報共有の仕組み，情報収集・発信のためのリテラシーについて実践的に学習する授業を行っている．本稿では，授業運営時に関する取り組みや課題について報告する．

キーワード：情報リテラシー，ソーシャルメディア，クラウドサービス，パーソナルブランディング

1. はじめに

近年，スマートフォンやタブレット PC をはじめとするモバイル端末の急速な普及に伴い，Google や Amazon, Dropbox などのクラウドサービスが広く一般にも利用されるようになった．加えて，Twitter, Facebook, LINE などのソーシャルメディアの利用者は日々拡大しつつあり，友人や知人との交流，新たな人脈の開拓やビジネスチャンスの獲得などに活用されている．

このように，我々の身の回りはかつてないほどの情報に溢れており，情報の取捨選択や真偽の見極め，社会生活とのバランスは，人々にとって身近な課題であると同時に，関心の高いテーマといえる．その一方で，Twitter 上での不用意な書き込みによる炎上，Facebook 上での公開範囲設定や写真へのタグ付けによる意図しない個人情報の流出，LINE での既読問題やグループ外しなどの問題も生じている．ソーシャルメディアを賢く活用するための知識・スキルは，ソーシャルメディアリテラシー⁽¹⁾とよばれ，企業内の社員研修や学校教育などでも関心の高いテーマである．

東京情報大学では，2013 年度よりソーシャルメディアやクラウドサービスの活用を通じて，情報共有の仕組み，情報収集・発信のためのリテラシーについて実践的に学習する授業を行っている．本稿では，授業運営時に関する取り組みや課題について報告する．

2. 情報リテラシー II の授業概要と意義

東京情報大学では，2013 年度の学部学科改組により 1 学部 1 学科 12 コース制へと移行した．文系・理系にとらわれない幅広いテーマ選択により，学生の興味や個性を活かしながらそれぞれの専門性を深めることを目指している．改組に伴いカリキュラムにも変更があり，1 年次後期必修科目として『情報リテラシー II』

が新設された．なお，従来からの科目である前期の情報リテラシー I では，PC やネットワークの基本設定，Office ソフトの利用方法に関する授業を行っている．それに続く本科目ではソーシャルメディアとクラウドサービスを取り上げ，「学生一人ひとりが自らの目的に応じた使い方を考えられること」を目的とする．ソーシャルメディアを使う目的は一人ひとり異なるため，様々なサービスの特徴を理解した上で，自分自身の目的とそのための使い方を見出すことは，今後の社会を生きていくための必須スキルといえる．以下に本授業の概要と到達目標を示す．

<授業概要>

ソーシャルメディアやクラウドサービスの活用を通じて，情報共有の仕組み，情報収集・発信のためのリテラシーについて実践的に学習する．

具体的には，Twitter や Facebook などのソーシャルメディア活用演習，クラウドサービスを活用したブログ作成演習を通じて，情報発信の意義と人脈作り，パーソナルブランディング（自分の理想と周囲からのイメージを一致させるためのすべての活動のことで，自分の専門性を主張し自分自身の価値を高めていくことが重要）の考え方について学ぶ．これらの実践演習により，『自分で未来を設計し，人生を切り拓く力』の醸成を目指す．

<到達目標>

ソーシャルメディアやクラウドサービスの活用を通じて，インターネット上での情報共有の仕組み，適切な情報収集・発信のためのリテラシーを理解し，社会のあり方，出来事を知るための情報感度を高める．

本授業では，Twitter, Facebook の活用を通じて，学生が自分なりの考え方を身に付けることが目的である．

本授業で学生に期待することは以下の2点である。

- (1) オープンなコミュニケーションを体験し将来に役立てる
- (2) トラブルに遭遇した場合に対処できる能力を養う

現状多くの学生は、ごく限られた友人とのプライベートなコミュニケーションが中心と考えられる。実際にはオープンなネットワークであるはずのTwitterであってプライベートな使い方の学生が多く見られる。ただし、この学生が社会に出る頃には、様々な人達と付き合うようになり、その中には学生時代の友人だけでなく、職場の上司や同僚、所属するコミュニティの人達など、多様な人々がいることが推測される。そのような人達と付き合う際には、オープンな場でのコミュニケーションが求められる。

そこで、ソーシャルメディアを実際に体験することで、情報発信や人脈作りなどを通じた将来の活動に役立つスキルを身に付けることが重要である。このような実体験を通じて、よい面、悪い面も含めて体験した上で、自分の頭で考えることが大切である。

次に、トラブル対応については、普段からソーシャルメディアを使っていなければ、対処方法を知る術は何もない。場合によっては、自分自身がターゲットにされていることさえ気付くことができない。ここにソーシャルメディアを正しく活用することの意義がある。

3. 実施内容

3.1 授業準備

上記理念のもと、授業準備として教材作成を行った。そこでまず、ゼミ内の学生を中心にプロジェクトを結成し、ソーシャルメディア活用に関するディスカッション、教材の原案作成を行った。シラバスに従って単元毎に担当者の学生を決め、教材に使用する素材の収集、原案の作成を行った。作成した原案は、ディスカッションを重ねながら修正を行い、それをもとに教材となるWeb文書を作成した。

上記に加えて、教材作成の新たな試みとして、勉強会コミュニティ『KnowledgeCOMMONS』の協力のもと、ソーシャルメディアリテラシーを考えるディスカッション形式のワークショップを開催した⁽²⁾。ワークショップの概要は以下のとおりである。ワークショップには、プロジェクトに参加する学生も参加した。そのときの様子を図1、2に示す。

大学の講義をみんなで作ろう！～「ソーシャルメディアリテラシー教育」編

日時：2013年5月23日 19:30～21:30

場所：株式会社ベネッセコーポレーション

参加者：20名（うち学生2名）



図1 ワークショップの様子



図2 ワークショップの様子2

ワークショップでは、趣旨と経緯を説明した上で、6～7名のグループ3つに分かれて、以下の5つのテーマでディスカッションを行った。なお、当日の資料はSlideShareに公開中である⁽³⁾。

- (1) オンライン/オフラインの発言で気を付けることは？
- (2) ソーシャルメディアを使う目的は？
- (3) 目的に合わせてTwitterをどのように活用できるか？
- (4) 目的に合わせてFacebookをどのように活用できるか？
- (5) 男性、女性で特に気を付けることは？

上記の各テーマに関して、グループ内で15分～20分程度の時間でディスカッションを行った。上記のテーマ(2)に関するディスカッションの結果、利用目的を「暇つぶし」、「ゆるいつながり」、「近況報告」、「リサーチ」、「就活」の5つに分類した⁽⁴⁾。

上記1点目の暇つぶしは、テレビと同様の受動的姿勢で、流れてきた投稿に反応するものである。また、Twitterでよく利用される「～なう」にはファッションの要素が含まれており、自分へのラベル付けがブランディングにも影響するという意見が得ら

れた。2点目のゆるいつながりは、強制力のないゆるいコミュニケーションにより人間関係を維持するものである。3点目の近況報告は、プライベートな出来事、活動を報告するのが目的となる。4点目のリサーチは、興味のある情報に対して、周りの反応を見ながら市場調査を行う使い方である。5点目の就活は、自分を丸ごと知ってもらうためのツールとして利用するという意見があった。このワークショップで得られた意見は、適宜教材に反映した。

3.2 授業運用

本授業は、2013年度後期より以下の計画に従って実施した。受講者は、本学総合情報学科の1年生470名で、学生を8クラス(2限4クラス, 3限4クラス)に分けて授業を行った。各クラスには、教員2名, TA・SA2名がそれぞれ配置されている。

<授業計画>

1. ネットワークの設定、基本概念
 - ・メールの転送, 設定, マナー
2. クラウドサービスの基礎
 - ・クラウドの概要, 各種サービスの紹介
 - ・Google アカウントの取得
3. ソーシャルメディア(1)
 - ・ソーシャルメディアの概要, 仕組み
 - ・Twitter の登録, 基本操作の説明
4. ソーシャルメディア(2)
 - ・Facebook の登録, 基本操作の説明
 - ・プライバシー設定, 情報の公開範囲
5. ソーシャルメディア(3)
 - ・Twitter と Facebook の特徴の違い
 - ・ソーシャルメディアリテラシー (1)
 - ・モラルやマナー, セキュリティ意識について
6. HTML 文書作成 応用編(1)
7. HTML 文書作成 応用編(2)
8. クラウドサービスの応用(1)
 - ・Google サービスの活用, Dropbox での情報共有
9. クラウドサービスの応用(2)
 - ・CMS (Contents Management System) の紹介
 - ・ブログでの情報発信, ブログ作成の心得
10. クラウドサービスの活用(1)
 - ・ブログ作成演習(1)
11. クラウドサービスの活用(2)
 - ・ブログ作成演習(2)
12. ソーシャルメディア(4)
 - ・ソーシャルメディアリテラシー (2)
 - ・ソーシャルメディア利用状況の確認
13. ソーシャルメディア(5)
 - ・パーソナルブランディングとキャリアデザイン
14. ソーシャルメディア(6)
 - ・ソーシャルメディアの使い分け
 - ・ソーシャルメディアを活用し, 自分の未来を切り拓くために
15. まとめ

本授業では、Google, Twitter, Facebook, Dropbox など様々なサービスを利用した演習を行うため、各種アカウント作成手順を学生に示した上で、本学ソーシャルメディア・ガイドライン⁽⁵⁾の周知・徹底を行った。

ソーシャルメディアの回は全15コマ中、6コマ実施され、前半3コマと後半3コマの間には1.5ヶ月の期間がある。これは、前半でソーシャルメディアの概要、基本的な機能や留意点などの説明を行った上で、学生が実際に活用する期間として設置した。後半では、上記期間で得られた経験、知識をもとにグループディスカッションを行った。ディスカッションを重ねて学生の理解を深めた上で、パーソナルブランディングを意識した情報発信、キャリアデザインなどの講義を行った。

本授業の授業風景を図3, 4に示す。授業は1クラス60名程度で、学内のコンピュータ室を利用して、講義と演習、ディスカッションなどを行った。



図3 情報リテラシーⅡの授業風景1



図4 情報リテラシーⅡの授業風景2

本授業運営の取り組みとして、授業に関する意見や質問をTwitterのハッシュタグ(#tuis_literacy2013)で募集した。授業に関する要望を収集すると同時に、学生にインターネット上のコミュニケーションに

ついて慣れてもらうことが目的である。その中で回答やフォローが必要なものに関しては、教員が適宜回答を行うようにした。授業のハッシュタグが付加されたツイートの一部を図5、6に示す。



図5 授業のハッシュタグのツイート1



図6 授業のハッシュタグのツイート2

学生からは授業で取り扱って欲しいテーマや分からないことに関する質問、授業の要望や改善点など有用な意見が得られた。その一方で、一部の学生による授業の不平不満や批判、授業の内容と関係のない雑談、授業放棄を吐露するような発言が散見した。炎上とは言わないまでも、本学の授業の取り組みとしてインターネット上に公開されていることから、教員の頭を悩ませる原因となった。ハッシュタグの是非も検討中ではあるものの、次年度は防止策の徹底、成績評価への反映などの対策を行う予定である。

3.3 学生のソーシャルメディア利用状況

学生のソーシャルメディア利用状況を調査するため、初回授業時に学生にアンケートを実施した。結果を図7~11に示す。なお、本アンケートの回答数は377となった。

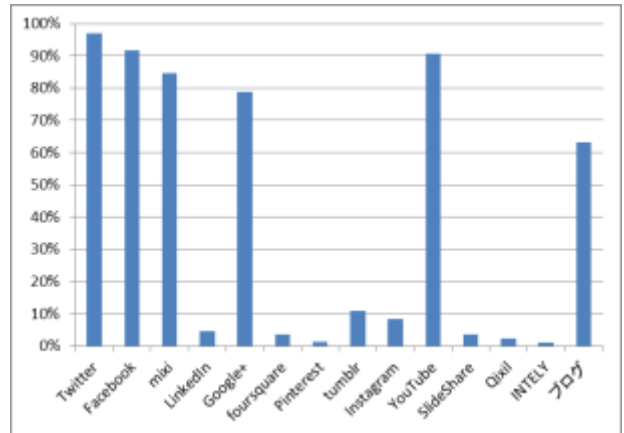


図7 ソーシャルメディアの認知度(複数回答可)

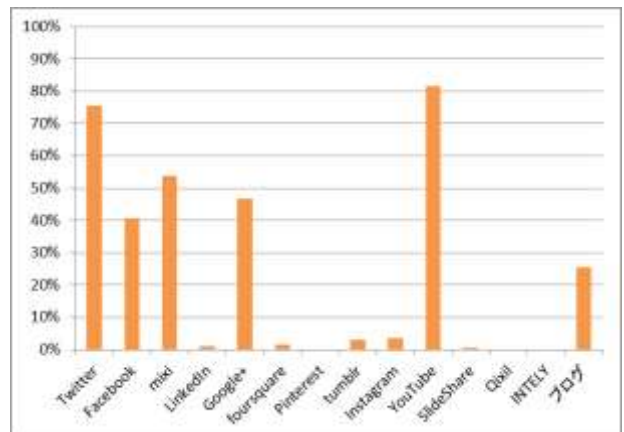


図8 ソーシャルメディアの利用経験(複数回答可)

図7より、ソーシャルメディアの認知度はTwitterが97%と最も高く、Facebook、YouTubeと続いた。mixi、Google+、ブログの認知度も60%以上となっており、半数以上の学生が何らかのソーシャルメディアを知っていることになる。その一方で、LinkedIn、Pinterest、SlideShareの認知度は1~5%とかなり低く、学生生活にはあまり馴染みのないことが分かる。

図8より、ソーシャルメディアの利用経験について、YouTubeが82%、Twitterが76%と高く、多くの学生が既にソーシャルメディアを利用する状況となっている。Facebookも41%の学生が利用している。本授業では、ソーシャルメディアの代表例としてTwitterとFacebookを重点的に取り上げることから、あまり理解せずに利用している学生、今後利用する学生に対して、活用方法や留意点などを伝えることができた。また、学生同士のディスカッションにより、ソーシャルメディア活用の意義について、学生自身に考えるきっかけを与えることができた。

図9より、実名登録に「抵抗がある」、「やや抵抗がある」と回答した学生が8割近く存在した。その理由として、半数以上の学生が個人情報の掲載に不安があると回答した。実名登録のメリットが分からない、デメリットの方が大きいと回答した学生も20%以上おり、知識不足による不安感があるものと考えられる。また、僅かながら実際に被害にあった

という学生もおり、トラブルへの対処に関する教育も重要な課題である。一方、実名登録に「あまり抵抗がない」、「抵抗がない」と回答した学生は2割程度であった。その理由について、抵抗がないと回答した学生の半数以上となる12%が知り合いに見つけてもらいやすいと回答した。



図9 実名登録に抵抗があるか？

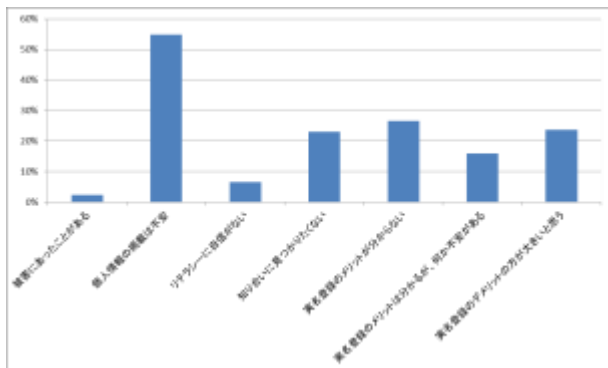


図10 実名登録に抵抗があると回答した理由 (複数回答可)

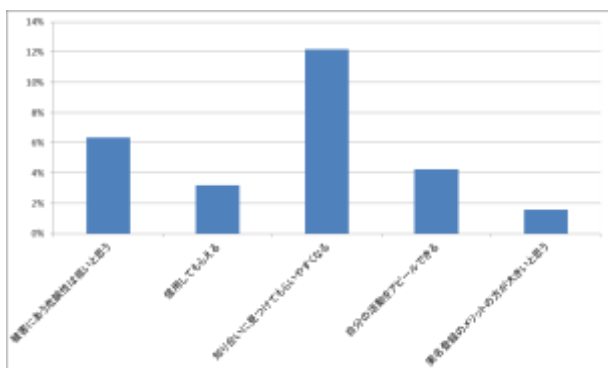


図11 実名登録に抵抗がないと回答した理由 (複数回答可)

その他、自由記述意見として、「個人情報の漏えいに不安がある」「実名登録を嫌う人がいるのに、Facebookへの登録を強制させるのは理解できない」などの個人情報に関する不安の意見が得られた。本授業ではこのような意見に配慮するため、Facebookの回の冒頭でプライバシー設定や友達ポリシーの

説明を行った上で、授業で取り扱う意味を伝えた。実際に自分で体験しない限り、ソーシャルメディアのよい面、悪い面を実感することはできず、トラブルの対処方法を知る術もない。実際に体験して、自分には適さないと判断すれば、授業終了後のアカウント削除は個人の自由であることも伝えた。

3.4 課題

本授業は、470名の学生が受講する必修科目であり、他の教員と協力し複数のクラスで運営している。その中で以下の課題が確認された。

- (1) クラス間での授業進行の違い
- (2) ソーシャルメディアに抵抗感のある学生へのフォロー
- (3) 作業が早い学生向けの内容

上記(1)について、470名の受講者を8クラスに分けて授業運営を行っている。教材は各クラス共通のものを利用するものの、すべての教員が日常的にソーシャルメディアを利用しているとは限らない。加えて、初年度は授業方針を固めながら運営を行っている状態であったため、クラス間での授業進行に差が生じることが多かった。円滑な授業運営のためには、教員間での授業方針や課題の共有が必要となる。また、学生にソーシャルメディアの魅力や留意点を伝えるためには、教員自身が実際にTwitterやFacebookなどを活用し、自ら実感していることが望ましい。

(2)について、前述したとおり、適宜フォローしては行っているが、Facebookでの実名登録に抵抗のある学生は一定数存在することは確かである。Facebookに個人情報登録して他者と関わる理由、それを授業で取り上げることの意義を説明する必要がある。座学だけではなく、実際に体験することで、自分なりの使い方や考え方を学んでいくことが教育方針である。本学の教育理念は「現代実学主義」であり、経験や実践を重視する方針である。この教育理念に沿った授業であると考えられる。

(3)について、授業内で行う演習では、作業の早い学生と遅い学生とで進度に差が生じる。次年度は、作業の早い学生向けの演習課題、習熟度別クラスの検討を行う予定である。進度の差は、アカウント作成の際に顕著に見られた。進度の遅い学生をフォローしつつ、一方では早い学生が退屈にならないような授業運営が求められる。

3.5 授業評価

本授業に対する学生の評価として、授業終了時に実施される授業評価アンケートがある。本アンケートは、知識・技術の習熟度、明瞭性、計画性・授業進度、熱意、満足度の5つのカテゴリに関して、学生が5段階で評価するものである。知識・技術の習熟度に関して、全授業の平均が3.9ポイントであるのに対し、本授業は各クラスで3.4~4.1ポイントで

あり、8クラス中6クラスが平均以上であった。一方、満足度に関しては、全授業の平均が3.9ポイントであるのに対し、本授業は各クラスで3.1~3.9ポイントであり、全クラスにおいて平均以下であった。学生が得られた知識・技術に対して、満足度が低いという結果が分かった。

その理由として、授業全体を通じてネットワークトラブルが多発したことが大きな原因と考えられる。本学では、外部のWebサイトにアクセスする際、プロキシの関係ですべての端末が1つのIPアドレスに集約されてしまう。多数の端末から1のサイトに同時にアクセスする場合、これにより攻撃と見なされ、処理が中断されてしまう現象が発生した。例えば、TwitterやFacebook、Googleのアカウント登録、Googleグループの作成、Bloggerの開設などで発生した。この現象は授業開始前から既に確認されていたため、学生には宿題として事前のアカウント登録を促していた。しかしながら、授業当日までに作業が完了していない学生が1~3割程度いたため、全クラスで数十人~100人以上の規模となり、アクセスが集中する原因となった。次年度は、授業運営の工夫やネットワークの対処などを講じる予定である。

4. まとめ

本稿では、2013年度より東京情報大学で実施している情報リテラシーⅡの授業について紹介した。本授業は、ソーシャルメディアやクラウドサービスの活用を通じて、情報共有の仕組み、情報収集・発信のためのリテラシーについて実践的に学習する授業である。具体的には、授業準備として、ゼミの学生を中心としたプロジェクトやワークショップを活用した教材作成、Twitter、Facebookを活用した実践的な演習、授業用ハッシュタグの導入による意見や要望の募集、グループディスカッションによる学生がソーシャルメディア活用の意義について考えるきっかけの提供などを行った。

その結果、ソーシャルメディアに関して実践的な演習を実施でき、情報リテラシー教育に関して新たな提案ができたと考えられる。その一方で、学生の満足度向上や円滑な授業運営に課題があることも分かった。次年度は、これらの反省点を踏まえ、よりよい授業運営に取り組む予定である。

参考文献

- (1) 大元隆志：“ソーシャルメディア実践の書”，リックテレコム (2011)
- (2) 河野義広：“ワークショップを活用したソーシャルメディアリテラシー教材作成（前編）”，ITmedia マーケター通信，アカデミックが見た社会 (2013)
http://blog.marketing.itmedia.co.jp/yoshi_kawano/entry/404.html
- (3) 河野義広：“大学の講義をみんなで作ろう！～ソーシャルメディアリテラシー教育編”，

KnowledgeCOMMONS (2013)

<http://www.slideshare.net/knowledgecommons/socialmedialiteracy-20130523-knowledgecommons-vol22>

- (4) 河野義広：“ワークショップを活用したソーシャルメディアリテラシー教材作成（後編）”，ITmedia マーケター通信，アカデミックが見た社会 (2013)
http://blog.marketing.itmedia.co.jp/yoshi_kawano/entry/412.html
- (5) 東京情報大学：“東京情報大学ソーシャルメディア・ガイドライン” (2013)
http://www.tuis.ac.jp/university/privacy-policy/5_53378cec855dd/index.html